令和３年度　幼　稚　園　経　営　計　画

港区立本村幼稚園
園長　山村　登洋

Ⅰ　はじめに

昨年度は、新型コロナウイルス感染症という私たちも予想できなかった事態が発生し、4、５月は休園からのスタートとなりました。６月からは分散登園での再開となりましたが、新型コロナウイルス感染対策のため、様々な教育活動が制限されてしまいました。

今年度は引き続き、新型コロナウイルス感染対策に最大限力を注ぎながら、教育は止めない、保育は止めないという継続させていくために全力を尽くしたいと思います。

今年度も幼稚園教育要領で示されている、幼児期の終わりまでに育ってほしい「１０の姿」をさらに具体化して取り組んでまいります。

「１０の姿」には小学校教育との繋がりを考えて幼児期に育てたい資質・能力の３つが柱となります。

①知識及び技能が習得されるようにすること

②思考力，判断力，表現力等を育成すること

③学びに向かう力，人間性等を涵養（かんよう）すること

「10 の姿」が幼児の成長のゴールのように考えてしまいがちです。しかし 10 の姿は、幼児期のゴールではなく、あくまで５歳児の後半までの成長の目安であって、目指すべき完璧な姿ではありません。小学校に入学してからも、連続して育っていくものです。

幼稚園と小学校の教員が５歳児修了時の姿を互いに共有することにより、幼稚園教育と小学校教育との接続をより一層強力にしてまいります。また、③の学びに向かう力の育成は、幼児期だけではなく、小学校、中学校、高校、大学へと繋がっていく力で、常に自ら課題を見つけ、自分で解決していく主体的な学習を示すものでもあります。

本園は今年度開園５０年目の節目を迎え、これまでの伝統や、教育の積み重ねを大切に継承しながら、「義務教育及びその後の教育の基礎を培う」幼稚園教育の目的を達成していくことに努めてまいります。「生きる力」の基礎となる生活習慣、心情・意欲・態度の育成に努め、教育活動を改善していきながら質の高い保育の実践を目指します。

幼稚園教育の基本である環境を通して行う教育、幼児の自発的な活動としての「遊び」の指導を中心とした生活、一人ひとりに応じた総合的な教育を常に考えて取り組みます。

港区教育委員会の港区教育ビジョンの目標を踏まえ本村幼稚園の教育目標具現化に向けて、実践を積み上げ、幼児はもちろん、保護者や地域の期待や信頼に応えてまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。以下に今年度の本園の経営計画を示させていただきます。

２ 教育目標

人権尊重の精神を基調とし、心身共に健康でたくましく生きる人間性豊かな幼児を育成する。

○　明るく元気な子ども
○　よく考える子ども
○　心豊かな子ども

３ 目指す幼稚園像

（１）「幼児一人ひとりが光り輝く（自己肯定感を高める）幼稚園」

○　心身の調和のとれた発達の基礎を養いながら、幼児一人ひとりが光り輝く人格形成を目指す。
○　幼児が多様に生活経験できる場と活躍できる場を年間を通して意図的・計画的に設定していく。
○　遊びを大切にした保育の中で幼稚園生活を楽しみながら身近な人と親しみ、個性が輝く心身共に健康な幼児の育成に努める。
○　幼稚園生活の中で満足感、達成感を多く体験させ、自己肯定感の向上を図る。また、その成功体験から、新しいことにチャレンジしていく態度を育成する。

（２）「幼児が楽しく登園でき、安全に過ごせる幼稚園」

○　いつも温かく寄り添い、導いてくれる先生がいる環境をつくる。
○　興味が湧きたつ環境や、安全に自主的に遊べる環境が整っていることを目指す。
○　社会生活における望ましい習慣や態度を身に付けるようにする。

（３）「小学校に向けての基本的な力を育てる幼稚園」

○　幼稚園教育要領に位置づけられた５歳児修了までに育って欲しい「１０の姿」を基盤に、基本的生活習慣、言語活動の充実、共同性、数量や図形、標識や文字などへの関心、意欲等を身に付けさせていくことを目指す。
○　小学校との定期的な交流を通して、小学校への不安を軽減し、希望をあたえていく。
○　幼稚園、小学校教職員相互の連携が保たれ、協力して教育活動ができるようにする。

（４）「保護者が保育内容に共感し、信頼できる幼稚園」

○　教職員が子供をよく理解し、適切な教育指導がされ、保護者が共感する。
○　幼稚園の教育方針・保育内容を公開し、保護者・地域から信頼を得られる。
○　教職員が礼儀正しく、明るく元気で明朗で親しみがあり、保護者が安心する。

○　幼児が安心して生活できる環境が整い、清潔で安全である。

（５）「幼稚園教育で身に付けさせたい資質・能力の３つの柱」

○　知識・技能の基礎

○　思考・判断力・表現力の基礎

○　学びに向かう力と人間性

４．目指す子供像

○ 基本的生活習慣が身に付き健康な子供

○ 自分で考え最後までがんばる子供

○ 思いやりのあるやさしい子供

○ きまりや約束を守り生活する子供

○ 友達と意欲的に楽しく遊ぶ子子供

○ 自然に親しみ興味や関心をもつ子供

５．中期的経営目標と方策

（１）「知識及び技能の基礎」…遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったりできるように なったりすること。

「思考力，判断力，表現力等の基礎」…遊びや生活の中で、気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすること。

「学びに向かう力と人間性」…心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとすること。

この３つの柱を幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、感性を働かせてよさや美しさを感じ取ったり、不思議さに気付いたりできるようになったことなどを基盤にして、多様な方法を用いて育てていく。

（２）幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、年長児－５年生交流プロジェクトや幼児－若竹学級交流プロジェクト、交流給食、避難訓練など幼児と児童の交流の機会をさらに増やすとともに、高陵アカデミーのもと、幼稚園と小学校・中学校の教員同士の意見交換や合同の研究の機会を設け、連携を図っていく。

（３）外国籍の幼児には日本語の環境にゆるやかに順応できるように配慮するとともに、それぞれの国の文化を尊重する活動を指導計画の中に取り入れるようにする。併せて危険回避、緊急時の対応については使用言語による障害が発生しないようにする。

（４）障がいのある幼児の指導にあたり、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、特別支援教育コーディネーター、特別支援学校などの助言又は援助を活用したり、関係諸機関と連携したりしながら個別の教育支援計画を作成し、

個々の幼児の状況及び特性等に応じた指導を行う。

（５）保護者及び地域との連携を密にしながら本村幼稚園の存在を意識付ける活動の機会を増やし、さらに一人ひとりの幼児に愛園心を育てていく。

６．今年度の取組目標と方策

(１)取組目標

①幼稚園教育要領の内容を具体化し、特に５歳児修了時までに育ってほしい「１０の姿」を考慮に入れた保育内容の充実を図る。そのために、幼児の実態と地域性を考慮した年間保育計画を立案し、健康・人間関係・環境・言葉・表現の５領域をバランスよく総合的に指導できるように取り組む。

②幼稚園教育要領に基づいた「カリキュラム・マネジメント」を行っていく。

・全体的な計画にも留意しながら、「10 の姿」を踏まえ教育課程を編成すること。

・教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。

・教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。

③成功体験や達成感を得ることで幼児の自己肯定感を向上させていく。そのために、一人ひとりのよさが引き出せるように幼児が挑戦することのできる場（チャンスの場）を意図的、計画的に設定し、支援することで、幼児の健やかな成長を促すとともに、活動意欲を高めていく。

④言語活動を充実させていく。「主体的・対話的で深い学び」「言語指導の充実」「見通しや振り返り」「情報機器の活用」の４つを柱として指導計画に考慮していく。

⑤人と自然、人と人との関わりを深める活動を通して、お互いを認め合ったり、生活に取り入れていこうとする力を養ったり、感動や思いを言葉に表して伝えあったりして、人間性豊かな幼児を育成する。

⑥講師を招聘した園内研修会を活発に行い、幼児が友達との遊びを通して楽しく意欲的に生活できるようにする。

⑦併設の本村小学校５年生児童と年長「はと組」幼児の交流プログラムを計画的に実施し、５歳児の小学校入学へ不安のないスムーズな流れを作っていく。

⑧同じく、併設小学校特別支援学級「若竹学級」との給食交流や行事交流、初釜交流を計画的に実施し、思いやりのある、人とのかかわりを大切にする幼児を育成する。

⑨高陵アカデミーの小学校や中学校と連携した保育を心掛けるとともに、季節感や日本の伝統文化を大切にし、日本の良さを感じられるような保育活動を充実するため、地域とも連携した取り組みも実施していく。

⑩今年度開催予定の東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、オリ

ンピアン・パラリンピアンとの交流を行い、オリンピック・パラリンピックの素晴らしさを知り、スポーツへの関心を高めていく。

⑪外部評価の実施、考察を通して、保育の更なる充実を図っていく。

⑫開園５０周年記念に関係する行事を通して、これまで受け継がれてきた歴史や伝統を理解し、本園で過ごせることの誇りをもたせていく。また、これまでにお世話になってきた方々への感謝の気持ちを育てていく。

⑬新型コロナ感染症対策を徹底し、安全で安心な教育環境づくりに努めていく。

⑭教員が子どもとふれあう時間を確保し、ワークライフバランスの充実を図るため働き方改革の取組を計画的に行っていく。週１回定時退勤日の設定、月１回以上水曜日定時退勤日の設定、長期休業中は全日定時退勤とする。

(２)方策

①人と関わりながら、安全に楽しく遊べる保育環境を整備する

・毎日、笑顔で挨拶を交わす習慣を身に付け、同時に健康観察と安全点検を行う。

・幼児が主体的に活動する場や教材の工夫や積極的に体を動かし遊ぶ環境を園庭、ホールの場に作り、幼児自らが遊びを十分に楽しみ夢中になって遊べる環境を整える。

・幼稚園での生活の仕方を知り、自分で生活の場を整える態度を育てる。

・幼児たちと共に遊び、関わりを深める中で、幼児と教師、幼児と幼児の望ましい人間関係を育てるとともに、協調性、規範意識や道徳性の芽生えを培う。

・自然と触れ合い、自然に興味をもてる環境を整え、主体的に関われるような働きかけを行って、活動意欲を育てる。

・危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する態度を身に付けさせる。

・週案日案には指導のねらいや安全面での配慮事項等を記入し、保育の充実に役立てる。

②保育活動の工夫と充実に努める

・教育課程の内容を理解し、指導のねらいと内容を明確にした保育を展開する。

・幼稚園での生活と家庭などでの生活との連続性を確保し、計画的に環境を構成することを通じて、幼児の健やかな成長を促す。

・計画→実践→記録→評価→改善の流れを大切にし、日々の保育について教員が意見交換や協議をする場を設けていく。

・教育的なニーズに応じて個別的な指導計画を整え、指導に当たるとともに、スクールカウンセラーなど専門家とも連携を図っていく。

・豊かな心情と思考力の芽生えを培うため、自然体験、社会体験を重視する。
・他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生みだす喜びや楽しさを味わわせ、自ら考えようとする気持ちを育てていく。
・幼児が自分の思いを言葉で伝えたり聞いたりすることを通して、言葉による伝え合いができるようにしていく。
・表現する過程を大事にして自己表現を楽しみ、進んで発表できるように工夫する。
・情報機器を活用して、幼児の興味・関心を高めると共に、活動内容を効果的に理解出来るようにする。
・保育の様子を毎日ホームページ等で発信し、保護者や地域の理解を得ていく。

③実践的な園内研究を実施する
・研究主題「友達との関わりを通して心地よさを感じ合えるようにするための指導の工夫」～戸外遊びを中心に～を昨年に引き続き主題として掲げ、指導方法を追究し、日々の保育指導の質を高めていく。
・幼児の変容を具体的にとらえ、研究の成果を明らかにしていく。
・指導計画及び評価計画を園内研究に沿った形で見直し、改善する。
・都、区主催の研修会に積極的に参加し、その成果を共有しながら広い視野をもち、指導力を向上させることに努める。

④高陵アカデミーの幼稚園・小学校・中学校との連携及び保護者・地域の教育力の導入を図る
・小学校との合同運動会・お茶会・読み聞かせ・発表会などを通して、小学校の様　子を知り、小学校の良さや憧れをもたせると共に、豊かな人間関係の幅を広げる。
・併設されている本村小学校５年生と５歳児が交流プログラムを実施し、小学校生活の不安を軽減させていく。
・小学校との交流給食の活動を行い、食を通して人と人との関わりを深める。
・夏祭り等の園行事を活用して、若竹学級や保育園児とも交流を図り、同年齢の子供と関わる場を増やす。
・親子合同の行事や地域の行事、保護者参観等を計画し、温かな触れ合いを通して保護者や地域の方々に保育活動の理解と協力を図っていく。
・主体的な活動としての遊びは、園内の活動だけでなく、本村小学校との連携によって幅広い活動になるようにする。
・専門家を招いて日本文化に触れる機会を設けたり、体づくり等を計画したりして、幼児の体験の機会を増やし、日本の伝統文化への関心を深め、活動意欲が高まるよ

うにしていく。

・本村幼稚園評議員会を設置するとともに、外部の評価も取り入れて、保育活動等の充実に努める。

⑤地域の幼児教育センターとしての役割を担う

・子育ての支援のために、地域の人々に施設や機能の一部を開放し、保護者等の協力も得て 「こりすクラブ」の運営を行う。

・「おひさまクラブ」による午後２：００～４：３０までの預かり保育を行う中で、地域・保護者のニーズに応え、施設の有効活用と幼児の安心安全を図る。

・幼児教育に関する相談に応じる。

・夏季休業中も、幼稚園のプール開放等を開設し、地域の子育てを通して本村幼稚園のよさを外部に発信していく。

７．終わりに

新型コロナウイルス感染症との対応はもうしばらく続くかとは思いますが、今年度も幼児に寄り添いながら、幼児期の終わりの時期までに育ってほしい「１０の姿」の具体化に向けて精一杯取り組んでまいります。

幼児は一人ひとり素晴らしい可能性をもっています。私たちは幼稚園の使命を深く理解すると共に、他者との関わりの中で、規範意識を育てながら、幼児の興味･関心･意欲を伸ばすために常に幼児の変化を見逃さず、適時性をもって指導できるよう、園長・副園長・教員がさらに指導力を高めてまいります。幼児の笑顔や喜び、安心のために幼児の自己肯定感の向上に向け取り組みます。